

ハヌル原子力発電所#2は加圧水型原子炉（PWR）であり、2基の原子炉（3、4号機）が設置されている。我々は定期的な総点検のために原子炉を停止し、蒸気発生器の不完全な伝熱管を修理するために施栓を実施しようとしたが、蒸気発生器の伝熱管施栓率が許容施栓率を超えたため、蒸気発生器の交換を決定した。

我々は予想される集団線量を設定し、個人線量を管理した。また、被ばく線量を低減するため、幾つかの方法（放射線遮蔽材の設置、モックアップ訓練、空気清浄ユニットの使用など）を用いた。さらに、蒸気発生器の交換中に発生する個体放射性廃棄物を管理した。

本報告から、我々が蒸気発生器の交換中に実施した放射線安全管理を理解し、ハヌル3号機と4号機の間で蒸気発生器交換の結果を比較することができる。